

草深い郷の幸は、冴え返る秋の月を

愛でるためーみでございませす。

片見月とながりませせんよう。

泊まる気でひらりきませり十三夜

① た  
たのー② て  
み

○は均等に

③ さ  
さー④ ま  
す

⑤ せ  
せー⑥ よ  
う

- ① た 4筆目を少し内側に入れて、のと一体化するように表現
- ② て みが主役になるよう、ほっそりと
- ③ さ ②と同じ要領。いが主役になり、余白を美しく表現する
- ④ ま すとの連絡線がだらだらと長くならないよう、中ほどから曲げる
- ⑤ せ んと調和するよう、水平ぎみに書いて、傾斜させる
- ⑥ よ ①と同じ：うと一体化するように姿勢を起こす